

原宿会

五味先生のご冥福を祈りつつ

—「遺言執行者」を代表して—

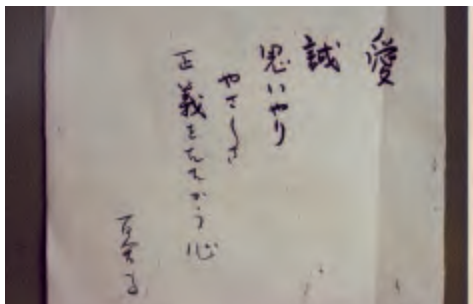
日本社会事業大学名誉博士 板山賢治

先生と私との初めての出会いは、今から六十年前の昭和二十三年の秋、東京・原宿の社会事業会館ホールのうす暗い一隅でありました。

甲府の中学教師であった私が、長期欠席児童の扱いに思い悩みながら大津の全国教育研究集会に参加の途次、京都駅のアナウンス(D・デッソー女史の指示による)で日本社会事業専門学校の存在を知り、焼け野が原の原宿の学校を訪ねた時のことでもあります。

偶然にも山梨・韭崎の先輩であることを伺い、入学を決意したのですが、「弁天様のような女性」という鮮烈な印象が、今も残っています。

あれから六十年。行政官時代も、母校での七年も、全社協・中央共募・障害者リハビリ協会を拠点とする社会福祉団体活動時代も、そして浴風会等の民間社会事業の実践等を通じて、今日まで、五味先生からは、折りにふれてピリリと辛いそして暖かい叱咤と激励を与えていただいたものと深く感謝しております。 ▼二ページに続く



発行所

〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同 窓 会

電 話 042-496-3053

振替口座 00100-9-42448

ホームページ・アドレス

<http://www.harajukukai.jp/>

卒業後もずっと社大の一員として日本社会事業大学では、卒業生の方々の充実したネットワークを築いています。本学同窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会事業学校研究科・専修科・専門学校、短期大学、学部の卒業生、そして大学院の修士の全員で組織されており、同窓会や大学の歩み、会員の活動などの情報を発信します。



<http://www.harajukukai.jp>

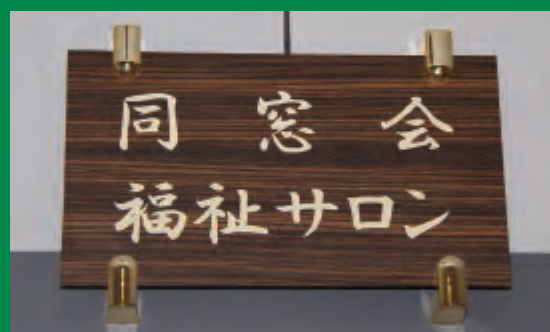
目 次

- 五味先生ご逝去報告 1.2
- 幹事会報告 3.4
- 同窓生通信 5~7
- ルポルタージュ 8

同窓会福祉サロン設置



9月7日文京キャンパス



幹事会報告

通信教育科卒業生の加入を進める

◆六月二十七日(土)もたれた審議の要点を報告します。

◆年会費収入の停滞からこれに対応した事業・予算となり、その大きなものは、支部強化費(各支部への活動支援)です。

これまで各支部一律三万円助成してきましたが、新年度から各支部二万円となりました。予算では前年と同額組まれていますが、事業実施の状況を見て、総額約五〇万円の範囲で追加して支援することになりました。

◆会則改正、第七条の副会長四名を若干名、第一二条の委員会、総務委員

と組織委員会を一本化し、

総務委員会とする。この二点です。副会長に竹田

幹雄氏(院二期・総務委員)阿部實氏(学三期・事務局長)の二名に

参画いただき、副会長の

大橋利雄氏(専九期)は健康上の事由で退任、同

氏を顧問に推挙して了承。副会長五名の体制となりました。

◆役員改選は、石橋会長の重任、ほか高島さち子・

和田敏明組織委員と北浦春夫広報委員の退任、新しく総務委員として古屋

克巳氏(学一六期)唐木理恵子(学二五期)に加

わっていただくことになった。副会長・監事ほかの役員は重任。

◆五味名誉会長からの遺贈金が二、八〇万円となり、活用方策を検討する組織をつくりたい。基金会計の運用を検討している顧問・会長・副会長

会に林千代氏(社会福祉法人わかくさ会理事長・本学元非常勤講師)に加

わっていただくこととしたい。この活用方策を各支部から十一月末までに提案を文書でいただくことについてあわせて了承。

◆幹事会審議で、母校通信教育科卒業生の同窓会

はブリッジ方式であったが、「原宿会」への加入を考えてほしい。これに

むけた検討が、新総務委員会で検討された。会長・副会長合同の会が後日も

たれ、同窓会加入の意志を確認し入会費・会費等、

現会員と同じ扱いです。めることが確認された。

◆これをすすめるには、周知方法、任意であるための会員番号順序や母校

の歴史とともに歩んだことでの区別(研究科・専修科・専門学校・短大・

学部・大学院等)がさらに四区分(社士・精士一般・精士短・主事)増えることへの対応や入会申込フォーム、コンピュー

タ関連事項など課題が多い。引きつづいて総務委員会で検討している。

◆七月十八日 守口市

第二回目の県支部・懇親会を四年ぶりに開催。

九十六歳から三十歳までの幅広い年齢層の会員十三人が参加。大橋学長に

来ていただいた「これからの地域福祉のありか」と専門職の役割」等について教えていただくと共に、今後の支部活動の方向性についてもご指導願

った。

◆九月十二日

同窓会和歌山支部と和歌山県社会福祉協議会の

共催で、「地域福祉推進フォーラム」を大橋謙策

学長をお迎えし、上富田文化会館で開催。約五〇

〇名の参加で盛会でした。大橋学長の講演は、難しいテーマにもかかわらずとても分かりやすくお話し下さり、参加者にとって今後の地域福祉のあり方について考えるよい機会となりました。

懇親会には、松崎泰子副会長、間哲朗京都支部長、日野昭義三重支部長の参加をいただき、支部会員十一名中十名、学部四年在学生とその家族、県社協役職員等二十三名で学長を囲み交流。

支部長菟原雨石・学五期

学部長を囲み交流。

◆七月十日 日光市

総勢二十九名が、北は北海道、南は沖縄から、世界遺産「日光」に参集した。同窓会から伊藤博胤副会長にお出ました

だき、お互いに現在の年齢を忘れて、原宿時代にタイムスリップした。四月に逝去された五味先生

を偲び、会場の「千姫物語」の温泉湯に浸りながら豊かな気分となり、かつ、二泊三日という世界遺産観光のコースを選択した参加者もあって、意義のある、充実したひとときであった。

入念な企画とサービ

を提供していただいた幹事・矢口夫妻に感謝したい。次回は紀州・和歌山(幹事苑原)で二年後の二〇一一年に再会。

御厨(みくりや)勝則記

◆長崎から

来年のNHK大河ドラマに「龍馬伝」にゆかりの地、丸山公園の近くに九尺二間の小さい部屋を無料開放いたしております。長崎にお越しの際は休息に御利用下さい。坂の街ですのでハイキングスタイルが良いと思います。牧重和(旧姓林)・本科五期 お越しの際は必ず御連絡ください(夜七時頃) 〇九五八八六一〜八八二二

和歌山から

滋賀から

JCSW ネットワークを広げよう

和歌山から

2008年度 日本社会事業大学同窓会決算

収入の部 (単位: 円)		
科 目	本年度予算	決算額
前年度繰越金	1,293,775	1,293,775
会費収入	6,300,000	5,083,000
入会金収入	867,000	870,000
利息収入	500	1,811
雑収入	5,000	3,000
合 計	8,466,275	7,251,586

支出の部		
科 目	本年度予算	決算額
会議費	450,000	385,154
委員会活動費	300,000	78,470
人件費	600,000	553,470
支部強化費	1,500,000	1,453,240
研究推進事業費	150,000	124,170
機関紙等印刷費	1,300,000	932,925
支部出張費等	600,000	317,600
通信運搬費	1,900,000	1,646,774
システム管理費	300,000	140,490
ホームページ関係諸費	200,000	139,972
慶弔費	200,000	25,750
国際交流推進費	100,000	133,560
学内学会助成費	150,000	150,000
卒業記念品費	250,000	263,600
事務局活動費	300,000	270,539
予備費	66,275	0
特別積立	100,000	0
合 計	8,466,275	6,615,714

【収支差引額】

7,251,586 (収入決算額) — 6,615,714 (支出決算額) = 635,872 (翌年度繰越額)

普通預金残高	5,617
郵便振替残高	597,340
現金残高	32,915
合 計	635,872

2009年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部 (単位: 円)		
科 目	本年度予算額	前年度予算額
前年度繰越金	635,872	1,293,775
会費収入	5,600,000	6,300,000
入会金収入	831,000	867,000
利息収入	500	500
雑収入	1,000	5,000
合 計	7,068,372	8,466,275

支出の部		
科 目	本年度予算額	前年度予算額
会議費	300,000	450,000
委員会活動費	200,000	300,000
人件費	600,000	600,000
支部強化費	1,500,000	1,500,000
研究推進事業費	150,000	150,000
機関紙等印刷費	1,100,000	1,300,000
支部出張費等	450,000	600,000
通信運搬費	1,600,000	1,900,000
システム管理費	150,000	300,000
ホームページ関係諸費	150,000	200,000
慶弔費	200,000	200,000
国際交流推進費	100,000	100,000
学内学会助成費	0	150,000
卒業記念品費	250,000	250,000
事務局活動費	260,000	300,000
予備費	58,372	66,275
特別積立	0	100,000
合 計	7,068,372	8,466,275

2008年度同窓会基金会計現在高(いずれも2009.3.31現在高) (単位: 円)

預金先	名 称	金額(前年度末)	金額(当年度末)
1.郵便局	定期貯金	10,035,920	10,041,520
2.労働金庫	定期預金	10,036,845	10,069,052
3.みずほ銀行	定期預金	8,895,076	8,974,999
計		28,967,841	29,085,571

特別積立現在高 (単位: 円)

預金先	名 称	金額(前年度末)	金額(当年度末)
三井住友銀行	定期貯金	801,323	803,574

お願い・お知らせ

◆年会費納付のお願い

幹事会報告にありますとおり、年会費納入が停滞しています。円滑な運営ができますよう、会員各位のご協力をお願いいたします。

茗荷谷駅近くに開設した「福祉サロン」の経費も考えなければなりません。

同封の振替用紙をご使用下さい。郵便局窓口ではなく、ATMで納入されますと同窓会負担手数料が安くなります。勤務先等変更の方は余白に記入下さい。

◆大学事務組織変更による同窓会対応窓口

母校事務組織が変更となりました。

・校 友 室

ダイヤルイン・・・

042(496)3053

ファックス・・・

042(496)3051

数間(かずま)・横山

◆茗荷谷キャンパス開かる

同窓会・福祉サロンが九月七日(月)開かれました。丸の内線茗荷谷駅下車五分、文京区小石川五ノ一〇ノ一二です。利用方法など追ってお知らせしますが、多くの方の来訪をお待ちしています。クラス会・研究会等希望の方は別記、校友室まで。

◆新支部長紹介・高知県



土居泰寛・学部十七期

◆五味先生”論集”頒布いたします

・五味百合子女性福祉論集 — 学生とともに歩む

林千代編 ドメス出版

・五味百合子先生想い出

集 偲ぶ会編

右二冊、送料含三〇〇円

現金もしくは郵便振替

日本社会事業大学同窓会

振替口座 00130-9-560492

同窓生通信

東京支部会
総会記念講演

並 木 心 さん
(東京都羽村市長・学部 9 期生)

「しあわせ実感都市の
実現をめざして」
七月四日(講演抜粋)

◆皆さんこんにちは、羽村市長の並木でございます。本年三月に市長選挙がございまして、二期八年の実績を評価いただきとともに、多くの市民のご支持により、市長として三期目を担当させていただきますことになりました。

私どもの市は、東京都二六市の中でも、人口規模は五万七千人、行政面積九・九km²余りの比較的小さな規模の市であります。東京市民の飲料水を供給する玉川上水の取入口として知られ、都市基盤整備の進んだ職住接近の都市として発展してまいりました。

◆本市では、昨年三月に、第三次の地域福祉計画を策定しましたが、これまでの計画内容を二変させ、「地域の福祉力」や「つ

ながり」を主要なテーマとして捉え直し、地域のコミュニケーションを活発にしていく支援や環境づくりなどを中心に位置づけました。今や、社会を構成する最小単位である家族の少子化と高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者の増加や児童虐待など、地域社会からの孤立や、何らかの生活上の課題を抱えている様々な事例が起きています。

また、生活の場である地域においては、他人への無関心や無干渉の風潮が強まり、町内会・自治会加入率の低下などに見られるように、コミュニティの活力が失われつつあります。こうした様々な地域課題の解決力として、「地域の福祉力」というキーワードが使われるようになってきました。私は、「地域の福祉力」とは、すべての人が人間として尊敬

をもち、地域社会の一員として豊かな生活が求められるよう、地域住民や福祉サービスを提供する団体、ボランティア、行政などすべての人や組織の協力のもとに、共に生き、互いに支え合う地域社会を創るためのしくみづくりやその営みなど、地域の課題を解決するための原動力だと考えています。

◆今日、家族、地域、職場などでの人間関係が希薄化するとともに、さきほども申しあげましたように、生活の場である地域においても、他人への無関心や無干渉の風潮が強まり、町内会・自治会加入率の低下などに見られるように、コミュニティの活力が失われつつあります。このコミュニティ活動を活性化させ持続させる「基盤」として必要なものとして挙げれば、「人、制度的枠組み、資金、場」等が考えられます。

◆平成一二年に、いわゆる福祉八法一括改正法が成立し、社会事業法の題名が社会福祉法に改められました。また、法的目的に、「福祉サービス利用者の利益の保護」と並んで「地域福祉の推進」を図ることが盛り込まれ、市町村の地域福祉計画が「法定化」されました。

ルポルタージュ

スクールソーシャルワーカー

駒崎 道
(専門職大学院四期)専門職大学院に入学した
きつかけは？

以前から対人援助職には興味がありましたが、「自分には直接な対人援助は無理、しかし媒体(書籍)を通して子ども達に生きる希望を伝えられる仕事をしよう」と考え、大学卒業後は出版社に就職。その後フリーランスで児童書の編集や取材・執筆の仕事に従事していました。ただ、卒業前、恩師であるロシア人の先生の「駒崎さんはいつか草の根的な仕事をしようになると思いますよ」という言葉が残っておりました。

不思議なことに、編集や子どものワークショップなどの仕事をする間、当時の養護学校での「スヌーズレン」制作や、子ども病院でのリハビリ・玩具開発のボランティアに携わるうちに、「医療」「学校」「アート」「情報」など様々な分野の人たちを「つながり」役割を担う機会がありました。もしかしたら、まだ「対人援助職」分野で自分が役立つ可能性があるのではないかと考えたことが

「専門職大学院」をめざす一つのきっかけになったと思います。
**スクールソーシャルワーカーを
されていると聞きましたが？**専門職大学院では、子ども支援の二つの役割としてスクールソーシャルワークをテーマに、試行錯誤で専門実習を行いました。学校は、子どもの様々な課題が発見されやすい場所です。こども時代をしつかり支えることで、重篤なケースに至る予防ができる役割なのではと。その頃東京近郊では、まだ一部の私立学校でしかワーカーは採用されておらず、私が専門職大学院を修了した平成二十年度四月から文科省がスクールソーシャルワーク事業を開始。同年十月からこの事業を始めた東久留米市教育委員会にスクールソーシャルワーカーとして採用されました。
私の初めての福祉実践現場です。また母校である私立中高一貫校で今年の四月からスクールソーシャルワーカーとしても勤務を始めました。

実際にどんなお仕事をしているのですか？

東久留米市では、現在三名が教育センターに席をおき「派遣型スクールソーシャルワーカー」として勤務しています。約半年かけて周知活動を中心に市内の小中学校二十二校や、児童相談所や保健所など関係機関に挨拶とスクールソーシャルワークの説明に伺いました。

仕事内容の大きな柱は大きく三つ。「関係機関との連携を含めたスクールソーシャルワークのシステムづくり」「ケース対応における行政機関間の情報共有等のルール構築や、周知活動等」と「学校内の子どもの支援システムの再構築」(学校内スクールソーシャルワーク研修やケースの情報整理と校内役割分担)そして「子どもと保護者の代弁機能です。学校と子ども家庭支援センターや児童相談所の方々との連携を基盤に子どもの就労支援や、医療受診同行など個別対応なども行っています。

私立校においては、主に子ども自身に寄り添い話をじっくり聞きながら保護者や教員に働きかけていくという仕事が目につきます。教師でもなく、カウンセラーでもない不思議な大人の存在が子ども達に受け入れてもらえる有り難さと、子ども達や保護者の持つ孤独感を同時に感じています。
学生時代に特に印象に残っていることがあればお聞かせ下さい。
やはり、なんといつても二週間泊まり込みで行った知的障害児施設における社会福祉実習です。私にとつては、初めての社会福祉実践現場体験でした。「着替え」「食事」「お散歩」など単純な日常生活の中で、子ども達への支援・療育に対する職員たちの理念が体現されていることを実感し、現場における「理念」の大切さを改めて考えさせられました。一緒に実習をした同級生とも励まし合いながら過ごせ

も達や保護者の持つ孤独感を同時に感じています。

学生時代に特に印象に残っていることがあればお聞かせ下さい。

やはり、なんといつても二週間泊まり込みで行った知的障害児施設における社会福祉実習です。私にとつては、初めての社会福祉実践現場体験でした。「着替え」「食事」「お散歩」など単純な日常生活の中で、子ども達への支援・療育に対する職員たちの理念が体現されていることを実感し、現場における「理念」の大切さを改めて考えさせられました。一緒に実習をした同級生とも励まし合いながら過ごせ

た良い二週間でした。もう少し若かったら就職活動したかったのですが、残念。

また、私は社会福祉士取得のために一年間で六十二単位以上履修していましたので、限五限まで月曜土曜の受講は非常に心身つかった記憶があります。帰り道、お茶をする心の余裕もなく、でも話したいことが沢山あつて友人と西国分寺の駅ホームで館を交換しながら二時間近く立ち話をしていたことも懐かしいですね。
今後の抱負をお願いします。

スクールソーシャルワークの仕事を通して教育現場に



プロフィール
1967年 東京生まれ。東京女子大学文理学部史学科卒業後、出版社勤務を経てフリーランスとして児童書の編集、また取材執筆、子どものワークショップなどの企画運営に携わる。2007年日本社会事業大学専門職大学院に入学し、社会福祉士を取得。2008年10月から東久留米市教育委員会にスクールソーシャルワーカーとして勤務。2009年4月から日本社会事業大学大学院社会福祉学専攻科博士前期課程に入学。



実習仲間との一コマ

福祉が入っていくことの難しさ、また「社会福祉」の対象となる範囲の広さ、そして他の文化や価値観に共感する力の必要性を日々痛感しています。また、それに対して一人の力では何もできないことや、一人の専門職としての責任の重さもヒシヒシと感じています。自分の選ぶ言葉、表情、そして判断が「子ども達の最善の利益」を実現するどころか、「最大の不利益」をもたらしかねない恐れに不安がつのります。しかし、この分野は「専門職」としてのモデルがないゆえに、ソーシャルワーカーの倫理綱領の理念に立ち返り「人間の尊厳」「社会正義」の実現に向けた王道を歩いていくことができるのではないかと希望を感じています。
ワーカーとしては新人ですが、自分の未熟さに甘えず、お世話になっている方々への感謝を忘れずに歩んで参りたいと思います。